

2 九州電力環境顧問会での主なご意見

2003年7月22日(火)に「第3回九州電力環境顧問会」を開催し、九州電力の環境問題への取り組みや「2003 九州電力環境アクションレポート」について、様々なご意見をいただきました。

主なご意見を紹介します。

1 環境経営の推進について

環境経営方針

- 九州のリーダー企業として、「九州の環境をこうしたい」という考えを打ち出すべきである。そうすることで他企業や市民等の参画も促進できるのではないか。

EMS

- ISO9000シリーズへの取り組みは怎么样了のか。総合エネルギー企業として、ISO14000シリーズと一体となった環境管理システムを考えることが必要ではないか。

環境広報

- 「エコ・マザークラブ」については、エコ・マザー自体の活動は分かるが、地域社会にいるお母さま方同士が如何にコミュニケーションし、情報の環を広げていくのか不明確である。より具体的なクラブ活動内容を明らかにすべきである。
- 「お母さま方の環境問題に関する意識・行動調査」では、何故4割が「九電は環境に配慮した企業である」と思わないのか、いわば“サイレントマジョリティー”の声を聞くべきである。

温暖化対策

- 民生(業務)のCO₂排出量の伸びが大きい中、需要側との接点大きい電気事業者は、需要側でのCO₂排出抑制を促すような対策を行っていく必要がある。(例:CO₂削減に努力している企業への電気料金割引の適用などの顧客の効率化に対する支援)
- 新エネルギーへの取り組みとしては、バイオマス発電を支援する等の取り組みがあつて良いのではないか。特に九州はバイオマスの潜在的能力も多いと思うので、これらへの取り組みは「九州らしさ」をアピールすることにも繋がる。

原子力問題

- 原子力施設にかかる自主点検作業の適切性確保に関する総点検の記載があるが、何故実施するに至ったのか、その背景を正確に記載すべきではないか。

植林

- 九州電力はもっと社有地を活用した取り組みを強化する必要があるのではないか。例えば、石炭灰の最終処分場に「吸収源」(森)を造るような取り組みを考えてはどうか。「100万本の植林」に続く取り組みとして、先に施行された「自然再生推進法」の制度趣旨に準拠した活動を展開して欲しい。

環境教育

- 九州電力は野間風力発電所など環境教育に活用できる施設を、女子畑以外にも多く所有しているので、これらを環境・エネルギー教育の拠点として整備していくべきである。

2 環境アクションレポートについて

- 内部環境監査結果や社員の取り組み意識調査結果の掲載など、ネガティブ情報を提供する姿勢が評価できる。
- ボリュームがあり専門用語も多いことから一般の方々には分かりづらいのではないか。一般の方向けにはより分かり易い形で身近な環境情報等を提供する必要がある。
- 「九州らしさ」を強調するものとしては、自然の風景だけでなく、九州の方々の生活風景や地域芸能なども取り込んだらどうか。また、九州の地図を掲載し、植林などの活動を地図上に記載しても良いのではないか。
- 電源ベストミックスの考え方における「新エネルギー」の位置づけ(RPS数値目標等)を明確に記載すべきではないか。

これらの貴重なご意見は、これからの九州電力の環境活動に活かしていきたいと考えています。

九州電力環境顧問会委員	赤木 衛	著述業
	浅野 直人	福岡大学法学部 教授, 中央環境審議会委員
	石窪奈穂美	生活ジャーナリスト
	奥 真美	長崎大学環境科学部 助教授, 長崎県環境審議会委員
	沢田 孝雄	読売新聞西部本社 編集局次長兼経済部長
	鶴田 暁	(社)日本環境測定分析協会 常任理事
	福泉 亮	福岡県立修猷館高校 教諭
	吉田 寛	コピーライター
	吉田 順子	特定非営利活動法人 もしもし地球 代表理事